

令和5年度岩城少年自然の家第2回協働会議 要旨

- 1 日 時 令和6年2月7日(水) 午前10時から11時40分まで
- 2 場 所 岩城少年自然の家 大研修室
- 3 出席者
 - (1) 委員
三浦委員(会長)、長田委員、野尻委員、齋藤委員、加藤委員、佐良土委員、近藤委員
 - (2) 県教育庁生涯学習課
中田課長、渡辺社会教育主事
 - (3) 事務局(岩城少年自然の家)
須田所長、栗林主査(兼)班長、菊地主任社会教育主事(兼)班長、越前屋主事
- 4 議事概要
 - (1) 開会
 - (2) 岩城少年自然の家所長あいさつ
 - (3) 県生涯学習課長あいさつ
 - (4) 出席者紹介
 - (5) 議事(議長:会長)
 - ①報告
 - 今年度の岩城少年自然の家の運営について
 - 今年度の利用状況及び主催事業実施状況について
 - 来年度の運営ビジョンについて
 - 来年度の主催事業について
 - ②協議
 - 今年度の運営について
 - 来年度の運営について
 - 岩城少年自然の家の愛称について
 - (6) 閉会
- 5 委員からの主な意見等
 - ・今までウサギコースにあった広大な樹木が伐採されてしまい、使用できなくなってしまったが、今後どうするのか、今現在のイメージ的なものがあれば教えてほしい。これから植林をしてコースと使用できるまでには結構長い目で見ているといけないと思う。
 - ・資料中の「開所半世紀に向けた施設利用等の新たな方向性の提案と実践」について、具体的にはどのようなことが提案されて実践されるようなことが考えられるのか。あまりにも漠然としているのもっと明確にしてほしい。
 - ・鳥海山・飛島ジオパークパートナーシップ協定を締結しようと考えたそもその理由は何か。
 - ・特別支援学校小学部児童の宿泊体験は親元から離れていろいろと自分の力でできることをやるということで非常に自信にもなったり、力がついて親も驚いたという声を聞いており、非常に貴重な学びの場であったと思う。
 - ・出前講座の防災教室では、いろいろ防災の避難所の避難スペースを作ったり、ご飯をお湯で炊いてみたりという実践を通して学ぶという非常によい機会をもらった。

- ・自然体験活動を存分にやらせたいが熊の心配があるので、こういう施設があつて職員がいろいろと目配りしてくれて安心して活動できることはメリットである。
- ・ここの自然の持っている力を活かすという意味ではジオパークとの連携はすごく有効だと思う。また、この地区で自然体験活動を個人でやっている人もたくさんいるのではないかと思うので、そういう人達をつなぎ、アウトドアに対する機運を盛り上げてネットワークを繋げていく拠点にここがなるというのはとてもよいことだと思う。
- ・放課後デイサービスを利用している障害のある方々が、活動の幅を広げたり、生活に変化を取り入れるという意味で方法は別として活用できるという情報を提供しても良いのではないか。
- ・施設の中でもフリーで楽しめる、スタンプラリーなどの館内での仕掛けがあると有り難い。
- ・おとなの遠足は人気だという話であったが、申し込んだ人が全員いける訳ではないので、そのニーズに応えるやり方があるのか、やっぱり人員を変えなければ難しいと考えているのか。
- ・市にもバスがあるので、市の方に頼めば少し話をきいてくれるのではないか。
- ・おとなの遠足の参加者の選定については、初回参加者を優先するとか、地域のバランスを取るとか幅広く利用する機会を与えてほしい。また、参加者同士が何かの機会にここへ集まってイベントに参加するとかそういうことがあればいいと思う。
- ・職員に限られた人員で盛りだくさんのメニューに奮闘しており大変だと感じている。安全確保のために必要な人員が確保するという観点から、他の自然の家から職員を派遣してもらうなどの体制を取ることができればいいのではないか。安全面の観点から職員の頑張りだけに頼っていていいのかなと思う。
- ・野外活動の時に石とか松ぼっくり、昆虫などを見つけると貼るカードをもらえたことがよかった。楽しみながらそういう学びの機会になればいい。
- ・道の駅の裏手の浜で、町内、学校や自然の家等とタイアップして体験学習の一環としてビーチクリーン活動を行ってはどうか。漂流物を使った工作活動もでき、道の駅に展示スペースを作って作品を展示することもできるかもしれない。
- ・防災に関しては、体育館を利用して避難所や防災生活体験というようないろんな防災について知る機会を通してさまざまな仕組みがわかると思った。また、県の防災学習館と連携を図るのもよいのではないか。
- ・事務局から提案のあった新愛称については反対意見はなく、「ガンパル岩城」に決定した。